

1 学校教育目標 豊かな心を培い、夢に向かって、主体的・創造的に活動する子どもの育成	2 本年度の重点目標 ①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫。 ②子どもたちの学習習慣の確立を図る。 ③子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる。 ④心の教育(一人一人を大切に人権教育)の深化と充実。 ⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進。 ⑥校内研究、教員研修の充実、勤務時間を意識した働き方改革。
--	---

3 目標・評価
①主体的に自分の考えを形成し、表現する力を育むための授業の工夫。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力の向上	指導方法の改善・充実	・児童アンケート「自分の言葉を使って学習のまとめを書くことができる」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合80%以上を目指す。	・「課題文へのマーキング」を徹底し、問われていることを正確に把握させる。 ・意見を整理するためのホワイトボードや図の活用、モデル文の提示、自分の考えを加除修正する時間の確保を通して、記述力を高めるための授業改善を図る。
		主体性を育む単元構成の設定	・発達段階に応じた児童司会授業を継続し、学習計画作りや課題解決のための話し合い活動に取り組みさせる。	・児童の実態に合わせ、低・中・高学年用の「学習司会用シート」「話し合い技」(話型)についてのプリントを作成し、活用させる。
	●志を高める教育	校内研究である外国語活動や外国語の学習の時間を中心に、自らの夢や目標の実現に向かって、努力する気持ちを高める教育活動の推進	・自分を見つめたり、将来について考えたりする学習や異文化理解を深める学習を多く設定する。	・地域人材を活用した体験学習を充実させる。 ・毎月、外国の文化を知ったり、日本の文化を見つめ直したりする掲示を充実させる。
		○外国語教育の充実	主体的に学び、積極的に表現できる児童の育成	・外国語活動における言語活動の充実を図る。 ・児童アンケート「言いたいことを工夫して伝えていきますか」の項目において、80%以上の達成率を目指す。

②子どもたちの学習習慣の確立を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○基本的生活習慣の確立	家庭学習の充実	・全児童が「学年ごとに定められた家庭学習の時間」ができるようになることを目標に、取り組ませる。 ・3年生以上に児童に、週末課題として算数科の発展学習に取り組ませる。	・「学習の手引き」を活用したり、学級通信等で家庭学習の啓発を図ったりして、保護者との連携を図る。 ・年二回の学習状況調査により、課題がある児童には個別に指導する。 ・3年生以上の児童には、自主学習や活用力を育む週末課題に取り組ませ、解法の理由を説明する記述力を高める。
		生活習慣の徹底	・早寝・早起きを呼びかけ、生活リズムの定着を図る。 ・各学年の実態に応じた忘れ物や宿題等のチェック表を作り、日々の生活を振り返らせることで生活習慣の徹底を図る。	・育友会と連携をとり、生活アンケートの実施や保護者への啓発により、「早寝・早起き・朝ごはん」運動の普及と徹底を図っていく。 ・教師が毎日チェック表に目を通し、基本的生活習慣が身に付くよう個別に指導する。

③子ども達の考えが生かせる場面を設定し、主体的・創造的に活動できる力を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○児童の主体的活動	主体的活動を通した自己教育力の育成	・児童の主体性・創造性を育む特別活動を推進する。 ・個性を伸ばす自主的な活動を推進する。 ・児童アンケート「自分の係や仕事をがんばっている」の達成率が90%以上を目指す。	・主な5つの学校行事や諸行事を実行委員会で計画・実施していくことで児童の主体性を育む。 ・委員会活動・クラブ活動・係活動では、集団への所属感を高めると同時に、子どもたちの考えが生かせる場面を設定し、自主的活動をうながす。

④心の教育(一人一人を大切に人権教育)の深化と充実。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●いじめの問題への対応	いじめのない楽しい学校 よりよい人間関係づくり	・互いに認め合い・支え合う学級集団及び全校的にも良好な仲間づくりを推進する。 ・保護者・児童アンケート「学校が楽しい」の達成率が80%以上を目指す。	・月1回の生徒指導協議会や友だちアンケートにより、気になる児童について共通理解を図り、全職員で連携しながら対応する。また、特別支援の児童はもちろんのこと心にとめておきたい子についても、個別の支援計画や指導計画を作成し見守る。 ・年1回(5月)に実施するQUTESTの結果分析を全教職員で共有し、心にとめておく児童に対して学級担任以外の教職員も積極的に関わっていく支援体制を確立し実践する。 ・スクールカウンセラーの先生に全学年1時間ずつ心理授業をしていただくことで、よりよい人間関係づくりに役立てていく。
		●心の教育	特別支援教育の充実 豊かな心の充実 道徳教育の充実	・道徳の時間及び人権・同和教育の時間を中心として、自己理解・他者理解の充実を図り、全校で道徳教育の推進に努める。 ・地域との連携により、各学年で体験や交流活動の機会を学期に1回以上行い、豊かな心の充実を図る。児童アンケート「体験や交流授業が楽しい」の達成率が80%以上を目指す。

⑤地域人材の活用、地域での体験活動の推進。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	保護者や地域の方々の学校行事や学校運営への参加促進	・学校ホームページや学校だよりを活用しながら、学校内の様子を広く地域に伝えていく。 ・生活科、総合的な学習の時間、外国語活動などを中心に、地域の人材を活用した授業を行う。	・こまめにホームページの更新を行ったり、地域の広報欄に学校だよりコーナーを設置したりして、最新の情報を伝える。 ・地域の方を活用した授業を実践し、地域との連携を深める。 ・地域に発信・交流する場を設ける。

⑥校内研究、教員研修の充実、勤務時間を意識した働き方改革。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教師力の向上	校内研究を通した教職員の授業力の向上 職員研修を通した教師の指導力向上	・自信をもって授業をすることができるようになるよう、校内研究の充実を図る。 ・教職員が必要とする研修の場を計画的に進める。	・全員公開授業を通して、お互いの授業を見合い、意見交換をし合いながら授業力向上を目指す。 ・講師招聘をしたり、自分たちでの研修の機会を保障しながら、教育活動全般にわたる指導力向上をめざす。
		●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進 勤務時間を意識した働き方改革	・勤務時間を意識し、能率、効率よく仕事をするために、教職員が協力し合う職場環境の充実を図る。 ・学校業務の見直しをし、教員が児童と向き合う時間を十分確保できるように工夫する。 ・全職員の残業時間を月60時間以内にする。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校運営方針	学校教育目標及び学校経営ビジョンの周知	・児童、保護者、教職員アンケートにおいて認知度を80%以上にする。 ・ホームページをこまめに更新日し、学校情報発信に努める。	・全校集会、学校行事、職員会議等で説明し、具体的な行動について、児童が実践できるよう、各種集会で働きかける。 ・学校だよりや育友会総会、育友会評議員会等で具体的な取り組みの様子を発信する。 ・ホームページを活用して、情報発信を行う。
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上 運動習慣の改善や定着化	・児童アンケート「元気に運動や遊びをしている」の達成率が95%以上を目指す。	・体育的行事や縦割り活動を通して、「運動大好きな子ども」を育てる。 ・授業で運動能力向上につながる動きや遊びを紹介し、休み時間にも取り組めるような環境を提供する。